

本校の結果と分析

札幌市立東白石中学校

去る4月、今年度の「全国学力・学習状況調査」が、全国の小学校6年生と中学校3年生全員を対象に行われました。この調査の目的は、「全国の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することで、これまでの教育の成果を検証し、課題となることを見いだしていくこと」にあります。各学校としては、全国ならびに自治体(北海道・札幌市)の結果と合わせて、学校としての成果と課題を見つめ、今後の教育活動の充実や改善に役立てていくことに活用されます。すでに報道されましたように、今年度の全国調査結果、続いて札幌市の調査結果の概要が発表になりました。3年生の生徒本人及び保護者の皆様には、個人の調査結果票を返却済みですが、本校全体としての結果と今後へ向けての課題や取組の方向性について、全学年の保護者の皆様にお知らせいたします。

1 教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等

本校の平均値を全国平均正答率と比較して、以下の通りに表記しています。

- ・「上回っている」…………… +3.1ポイント以上
- ・「全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている」…… +3.0ポイント以内
- ・「全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている」…… -3.0ポイント以内
- ・「下回っている」…………… -3.1ポイント以下

【国語】

本校の概要	課題	改善の方向
<p>【領域】 「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ◇全国平均を下回っている。</p> <p>「情報の扱い方に関する事項」 ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。</p> <p>「我が国の言語文化に関する事項」 ◇全国平均を上回っている。</p> <p>「話すこと・聞くこと」 ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。</p> <p>「書くこと」 ◇全国平均を下回っている。</p> <p>「読むこと」 ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。</p>	<p>▷文の成分の照応のうち、修飾語と被修飾語の関係を捉えること。</p> <p>▷意見と根拠など情報ととの関係について理解すること。</p> <p>▷自分の考えが話し合いの課題や発言の内容とどのように結び付いているのか、つながりが分かるようにまとめること。</p> <p>▷根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。</p> <p>▷文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。</p> <p>▷目的に応じて必要な情報に着目して要約すること。</p>	<p>▷文の成分の順序や照応に注目して文章を読み直し、分かりやすい文章に整えていく活動の充実。</p> <p>▷話や文章の中に示されている考えと、それを支える根拠との関係を明らかにしながら理解し、実際に表現する場面で活用する活動の充実。</p> <p>▷話し合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめる活動の充実。</p> <p>▷自分の考えが確かな根拠に基づいたものであるか確認したうえで、示す根拠を検討し、考えと根拠の関係を明確にして記述する活動の充実。</p> <p>▷図表と文章との関連を確認するなどして、書き手の伝えたい内容を正確に読み取る活動の充実。</p> <p>▷目的や相手を明確にして、実生活の中にある文章の内容を要約して伝える活動の充実。</p>

【数学】

本校の概要	課題	改善の方向
<p>【領域】 「数と式」 ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。</p> <p>「図形」 ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。</p> <p>「関数」 ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。</p> <p>「データの活用」 ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。</p>	<p>▷等式を目的に応じて変形すること。</p> <p>▷条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ること。</p> <p>▷二つの数量の関係について、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。</p> <p>▷複数の集団のデータ分布から、四分位範囲を比較すること。</p>	<p>▷ある文字について解くことの意味を理解するとともに、等式を変形する過程を、等式の性質などの根拠に基づいて説明し合うなどの学習活動の充実。</p> <p>▷一旦解決された問題やその解決過程を振り返り、問題の条件を見直したり、共通する条件や図形の性質を見いだしたりすることを通して、統合的・発展的に考察する学習活動の充実。</p> <p>▷問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする学習活動の充実。</p> <p>▷日常生活や社会の事象を題材とした問題などについて、解決するために必要な計画を立て、必要なデータを収集して分析し、データの分布傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の学習活動の充実。</p>

② 生活習慣や学習環境(生徒質問紙)の調査結果から

この調査は、生徒一人一人が自分に最も当てはまるものを選択する形式で回答するものです。

【肯定的な考えを示す回答の割合が多かった設問】

- ・「いじめはどんな理由であってもいけないことである」と考えている割合が高い。
- ・「友達関係に満足している」という割合が高い。
- ・「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表している」という割合が高い。
- ・「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりしている」という割合が高い。
- ・「先生は間違えたところや理解していないところを分かるまで教えてくれる」と考えている割合が高い。
- ・家庭の蔵書数が多い。

【否定的な考えを示す回答の割合が多かった設問】

- ・「ICT機器を家庭学習に使っている」という割合が低い。
- ・「習ったことや教わったことを健康のために生かしている」という割合が低い。
- ・「新聞を読んでいる」という割合が低い。
- ・「放課後や週末における地域活動に参加している」という割合が低い。
- ・「学習課題について自ら考え取り組んでいる」という割合が低い。
- ・「授業で学んだことを次の学習や実生活に生かしている」という割合が低い。

全体的な傾向や今後の改善の方向

- 「社会のために役に立ちたい」という気持ちが育っています。引き続き、学校教育目標である「すすんで、よりよい社会をつくる人になる」の達成を目指していきます。
- 学習習慣が定着し、計画的に取り組むことができる生徒はまだ少ないと言えます。
- 主体的に課題解決に向けて取り組むことができるか、などといった「学びの質」の改善が必要です。
- 家庭学習を習慣化するためにも、「睡眠」「朝食」「ゲームやスマホ」などの生活習慣を整えていくことが大切です。
- 仲間と意見を交わしながら、協働して課題を解決していく学びが重視されています。今後も、ICTや書籍等の活用を含めた授業改善を進めていきます。
- 引き続き、道徳の授業などを通して、自分と他の人・集団との関わりを学びつつ、自分の長所を見つめ直していくことを目指していきます。

以上、今年度の「全国学力・学習状況調査」の方向と調査結果の概要について、お知らせいたしました。この結果を踏まえ、今後も、多様な考えを認め、高め合う姿勢を育て、自己有用感を高めること、また、いつでも気軽に相談できる環境下で学校生活を送れるようにすることなど、今後の教育活動に生かしていきたいと考えています。今後も保護者や地域の皆様のお力をお借りしながら生徒一人一人の学力や生活意識の向上のために取り組んでいきたいと考えております。